

Y5-04

高齢化社会における正常圧水頭症治療の意義と問題点

鹿児島赤十字病院 脳神経外科
かわぞえ かずまさ
川添 一正

【はじめに】高齢化社会を迎えて、歩行障害などの身体的障害、近時記憶傷害などの認知症、頻尿などの排尿障害の問題を抱える高齢者が増加している。歩行障害、認知症、排尿障害を主症状とする正常圧水頭症の治療は、長寿高齢者社会の質を高めるために非常に重要である。我々は、2005年より、正常圧水頭症に対し、ガイドラインに則って診断、治療を行ってきた。近年は、年間50例前後の手術を行っている。当院での結果を分析し、報告する。

【対象】2005年より2009年までに当院でシャント術を行った正常圧水頭症患者192例。

【方法】全症例に対する合併症の発生内容を分析する。

【結果】合併症の発生を7%にまで下げることができた。

【考察】高齢者が自立して生活できることが望ましいことはいうまでもない。しかしながら、高齢者になればなるほど介護が必要となっている事も事実である。特発性正常圧水頭症はいまだ広くは認識されていないが、近年認知症の1割以上が特発性正常圧水頭症であるとわかってきた。さらに、高齢者の多くがパーキンソン病様の歩行になっているが、特発性正常圧水頭症の症状である可能性が高い。また、夜間3回以上トイレに行く高齢者の多くも特発性正常圧水頭症の可能性が高い。このように、特発性正常圧水頭症の治療は、健康長寿・高齢者医療の代表的なものと言える。しかしながら、高齢者に対する手術となるため、さまざまな合併症が起こる。できる限り合併症を減らす必要がある。そのためには、より正確な診断、適切な手術法の選択、手術手技の工夫が必要であることがわかった。今後更なる貢献を目指すためには、一般市民への啓発活動を行い、軽症のうちにより安全な手術を行うことが望まれる。

Y5-05

東海呼吸療法サポートチーム協力会での人工呼吸器シミュレーションの教育評価

名古屋第一赤十字病院 ICU
あきえ ゆりこ
秋江百合子、関 正宏

【背景】今回、東海四県を含む東海呼吸療法サポートチーム（RST）協力会の教育活動の一環として、2011年3月に当院で人工呼吸器のシミュレーショントレーニングを開催することとなった。人工呼吸器装着中のトラブルを再現し、トラブル箇所の発見とその対処方法について、体験させながら考えて行動させるという教育を実施し、質問紙調査を元に教育効果を考察した。

【対象】東海四県下の医師10名、歯科医師1名、看護師26名、臨床工学技士（ME）1名、計38名。

【方法】1. 1グループを3～4名で医師1名、看護師2名、ME1名で構成し、16グループとした。2. シミュレーション研修の前にグループでKYTを実施し、初対面の人々のチームワークを図った。3. METI社製高機能患者シミュレータECSを用いて、8シナリオを実施した。4. 1シナリオを実施後に実施状況を撮影したビデオを観ながら、受講生に対応方法を振り返らせた。

【結果】質問紙から、92%がシミュレーション研修前のKYTはチームワークに役立ったと回答した。97%が、今回のシミュレーションは満足できるものだったとしていた。各シナリオの解説および内容の理解も平均して95%が理解できたと回答している。受講者からは、臨場感ある体験ができ、今後に活かせる研修会だった、緊張感があり、楽しく学べたという意見であった。そして全員が今後もシミュレーション研修に参加したいと回答した。

【考察】生命維持装置である人工呼吸器装着のトラブルは死に直結するアクシデントになりかねない。しかし、誰もが経験し対処方法会得していくことは困難である。今回のように人工呼吸器装着トラブルを再現し、体験させながら考えて行動させるという教育は、臨床でも役に立つ内容であると示唆された。